

Oracle 入門 ～研修受講後テスト～

■問題1【データベース概要】

データベースの利点について誤っているものを2つ選択して下さい。

- データアクセスでは、物理的な位置を意識することができる。
- データを1つにまとめて管理することができる。
- 複数のユーザーで共有利用することはできない。
- データの冗長が解消されれば、データの矛盾発生も防止できる。

■問題2【データベース概要】

リレーショナル・データベースとデータベース管理システムの特徴について以下の説明文の空欄に正しい用語を選んで下さい。

Oracleは【 】型のデータベースを採用している。また、それを管理するシステムを【 】という。
【 】・データベースにアクセスする際は必ず【 】と呼ばれる言語を使用する。【 】は
【 】や【 】を指定するだけで簡単にデータにアクセスできる。

- A. 階層 B. SQL C. 表 D. 列 E. 行 F. リレーショナル G. ネットワーク H. RDBMS

■問題3【SQL概要】

SQLとトランザクション制御の特徴として誤っているものを全て選んでください。

- トランザクションの処理は、COMMITまたはROLLBACKによって制御される。
- SQLでは、物理的にデータが格納されている位置を指定して処理する。
- SQLはOracle独自の言語である。
- インスタンス障害が発生すると、トランザクション中の処理は全てROLLBACKされる。

■問題4【Oracleの基本機能】

データベース・ユーザーと権限について、以下の説明文の空欄に正しい用語を記述して下さい。

- ・ データベースを作成すると【 】、【 】ユーザーが自動的に作成される。
通常データにアクセスする一般ユーザーは必要に応じて管理者によって作成される。
- ・ データベースへの接続や表を作成するためには【 】権限、他のユーザーの所有するデータベース・オブジェクトにアクセスする際には【 】権限が必要である。

■問題5【Oracleの基本機能】

同時実行制御について誤っているものを全て選んで下さい。

- ロックしているユーザーが、COMMITを実行するとロックは解放される。
- ロックしている行を、他のユーザーがSELECTする事はできない。
- ロックしている行に対してデータ操作を行うとエラーが返る。
- 大量の行がロックの対象となった場合でも、ロックが表全体に広がることはない。

■問題6【Oracleの基本機能】

整合性制約とその説明として正しい組み合わせを2つ選んでください。

- NOT NULL制約：データの欠落を許可しない
- 一意キー制約：重複データとNULLを許可しない
- 主キー制約：結合対象となる表の関係を保つ
- チェック制約：ユーザーが条件を設定できる

■問題 10 【Oracle の標準ツール】

以下の目的に最適な Oracle の標準ツール名を選択して下さい。

- ・ 障害に備えてバックアップの取得や管理を行えるツール。 【 】
- ・ CSV形式などの外部ファイルのデータをデータベースの表へロードできるツール。 【 】
- ・ 表やユーザー単位でバックアップを行えるツール。 【 】
- ・ GUIでデータベースの管理作業が行えるツール。 【 】

- A. SQL*Plus B. Database Configuration Assistant C. SQL*Loader
D. Recovery Manager F. Data Pump Export/Import G. Oracle Enterprise Manager